

さいば しんや

## 西馬晋也さんのプロフィール（認定者No.7）

京阪出町柳駅より徒歩10分ほど。出町桝形商店街の一角にあるトランスカルチャー・シェアスペース「De まち」。2012年のオープン以来、まちづくりやジビエ、旅、お金、野草など、さまざまなテーマを講師と参加者が一緒に学ぶスタイルのワークショップを毎月開催しています。今回70's PROJECT の人間国宝さんの認定記念として、インタビューをさせていただいた西馬晋也さんは、この「De まち」を運営する株式会社応用芸術研究所（代表：片木孝治）という、地域と大学生が連携してまちづくりを行う会社の役員であり、また、福井県鯖江市の地域おこし協力隊員でもあります。さまざまな場所を横断し、ひととひとが出会う場をつくっていく西馬さん。どのようにひとやまちと関わろうとしているのでしょうか。個人的には学生時代から知っている西馬さんですが、今回改めて深くお話を聞くことができました！現在西馬さんはだいたい月の半分ずつ、福井県鯖江市と京都府京都市それぞれを行き来して暮らす、2拠点居住をしています。鯖江市では2004年より、京都精華大学で建築を教えていた片木先生が立ち上げた「河和田アートキャンプ」という、学生×地域×アートがテーマのプロジェクトが継続しており、西馬さんは学生時代からこの取り組みに関わって、現在も地域と学生との橋渡し役を担われています。2012年からは、鯖江市での取り組みの成果をさらに他の地域でも活かそうということで、京都府与謝郡与謝野町・京都府南丹市美山町・福井県坂井市丸岡町でのプロジェクトも順に立ち上がり、それぞれがテーマを持って、学生が主体となり運営されています。西馬さんは、地域の方や学生たちと伴走して、互いの調整役になり、地域で世代交代が上手くいっていない場合でも、アートキャンプに関わる次の代まで引き継ぎできるよう、地域を見渡してひととひとをつないでいくそうです。自ら運転をして毎週あちこちの地域を移動し、たくさんのひとと関わり、休む間もなさそうな西馬さん。横からチラッと見たグーグルのスケジュールはびっしりと色わけされ、予定がつまっています。そんなにも忙しいと、自分を見失うことはないのだろうか。インタビューが終わって、じゃあまた！と小さく手を振る西馬さんの様子が大学時代の西馬さんと一瞬ダブって、懐かしくなりました。でも、昔とは全く違う。忙しいし悩むけれど、未来を見据えて前に進み続ける力強い西馬さんの姿が見えました。



2017.5.15 堀家 沙里